

分水商工会景況調査報告書

| | |
|------|-------|
| 組織番号 | 0030 |
| 商工会名 | 分水商工会 |
| 報告者名 | 加藤 幹弥 |

1. 調査要領

(1) 調査対象

ア 対象地区 地区内小規模事業者
イ 対象企業数 31 事業所
ウ 回答企業数 31 事業所 (回答率 100 %)

(2) 調査対象期間

平成27年7月～平成27年12月
(調査時点 平成27年12月1日)

(3) 調査方法

経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

| | 調査対象 | | 有効回答 | |
|-------|------|--------|------|--------|
| | 企業数 | 構成比 | 企業数 | 構成比 |
| 製造業 | 6 | 19.4% | 6 | 19.4% |
| 建設業 | 9 | 29.0% | 9 | 29.0% |
| 卸・小売業 | 9 | 29.0% | 9 | 29.0% |
| サービス業 | 7 | 22.6% | 7 | 22.6% |
| 合計 | 31 | 100.0% | 31 | 100.0% |

2. 地域内産業全体の景況概要

旧燕市と長岡市の間であり、製造業、建設業は広い商圈を活かし、好調を維持している事業所が多い。
逆に商圈の狭い、商業関係は衰退感が否めず、苦戦が強いられている。

【後継者の状況】

衰退著しい商業では、継がせることへの抵抗感すらある。

| | | |
|--------|-------|-------|
| 後継者 あり | 22事業所 | 71.0% |
| 後継者 なし | 9事業所 | 29.0% |

【売上高】

小売り・サービスの商業では停滞感をぬぐえず、打開策も乏しい状況。
製造・建設の工業では昨年度の好循環の流れをつかんだ事業所は依然好調を保持しているようだが、流れに乗りきれなかった事業所は苦戦をしている。

前年同期比

| 増加 | 不変 | 減少 |
|----|----|----|
| 12 | 14 | 5 |

前期比

| 増加 | 不変 | 減少 |
|----|----|----|
| 12 | 12 | 4 |

今後の見通し

| 増加 | 不変 | 減少 |
|----|----|----|
| 8 | 18 | 5 |

【採算】

消費増税、軽減税率などの動きを気にしつつも、堅実な営業がうかがえる。

前年同期比

| 好転 | 不変 | 悪化 |
|----|----|----|
| 5 | 20 | 6 |

前期比

| 好転 | 不変 | 悪化 |
|----|----|----|
| 5 | 20 | 6 |

今後の見通し

| 好転 | 不変 | 悪化 |
|----|----|----|
| 4 | 21 | 6 |

【仕入単価】

仕入れ値を圧縮できるほどの体力もなく、現状維持が続く。

前年同期比

| 上昇 | 不変 | 低下 |
|----|----|----|
| 8 | 23 | 0 |

前期比

| 上昇 | 不変 | 低下 |
|----|----|----|
| 9 | 22 | 0 |

今後の見通し

| 上昇 | 不変 | 低下 |
|----|----|----|
| 4 | 27 | 0 |

【販売（客）単価】

現状の小売商店では、来店機会を作れず、併売による客単価増も困難。
卸でも、手を加え、単価増を試みるが、増加させることは難しい。

前年同期比

| 上昇 | 不変 | 低下 |
|----|----|----|
| 2 | 25 | 4 |

前期比

| 上昇 | 不変 | 低下 |
|----|----|----|
| 0 | 29 | 2 |

今後の見通し

| 上昇 | 不変 | 低下 |
|----|----|----|
| 2 | 22 | 7 |

【資金繰り】

好循環の維持や現状打破のため設備投資が多かった。
その為、短期的に資金繰りの悪化という回答も多かった。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 |
| 3 | 23 | 5 | 2 | 24 | 5 | 2 | 23 | 6 |

【雇用動向】

小売り、サービスでは、雇用をするほどの内容も体力もないのが本音。
製造業では、短時間労働者の需要が増加。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 増加 | 不変 | 減少 | 増加 | 不変 | 減少 | 増加 | 不変 | 減少 |
| 3 | 27 | 1 | 2 | 28 | 1 | 2 | 28 | 1 |

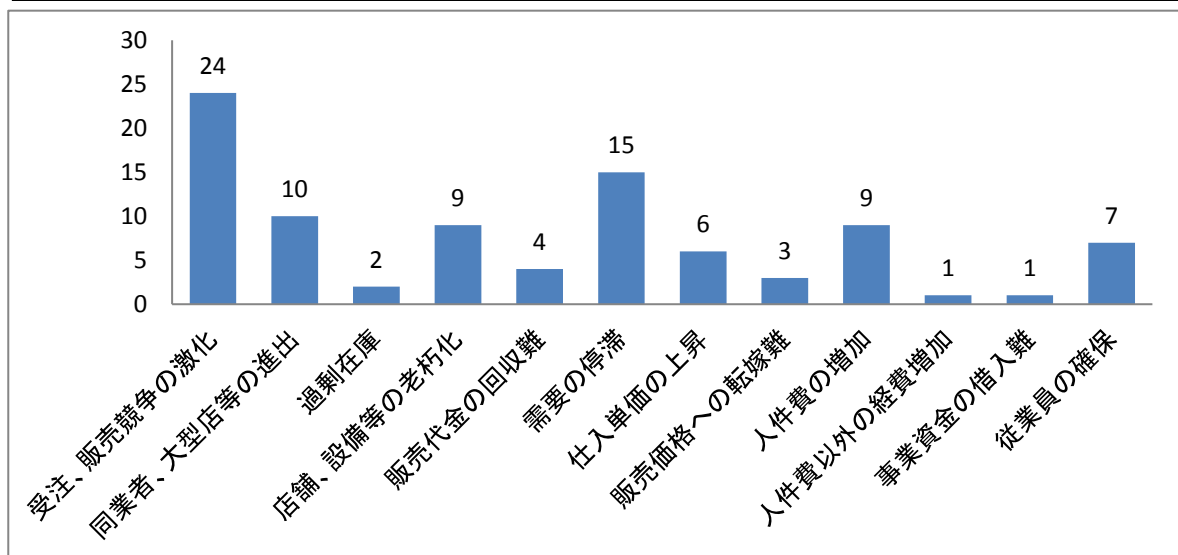
【景況判断】

現状維持に精いっぱいであり、今後は不透明との回答が多い。

| 前年同期比 | | | 前期比 | | | 今後の見通し | | |
|-------|----|----|-----|----|----|--------|----|----|
| 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 | 好転 | 不変 | 悪化 |
| 3 | 25 | 3 | 2 | 25 | 4 | 2 | 21 | 8 |

【経営上の問題点】

業種を問わず、同業者が多く競争の激化が問題となっている。
しかし、その競争に打ち勝つため、雇用や設備の増強により対応しているが、
人件費の増などにより、利益の圧迫が問題となっている。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

大手企業の下請けが多く、影響を受けやすい状況ではあるが、堅調に推移。中堅企業では、新たな設備投資や製品開発などによる営業努力を続け、順調に営業を継続している。
自ら営業努力のできない小さな工場では、衰退が進み、現状維持も難しい事業者も多い。

(2) 建設業

木造建築事業者は、元受工事が減少し、従業員の人件費と維持が問題となってきた。
建設事業者では、広い商圏を活かし、堅調に推移している。

(3) 卸・小売業

衰退が著しい。
後継者＝事業意欲が顕著であり、自分の代で廃業という考えが多い。
その為、営業努力も少なく、新規顧客は難しい。
若年層の来店も望めず、移動販売で対応する事業者も多いが、来店による併売が期待できないため、客単価は伸びず、顧客の減少も続くため、再建が難しい。

(4) サービス業

企業努力のうかがえる理美容業が多い。
製造業同様、差はあるものの、堅調な営業を続ける店舗が多い。
また、自動車関連の事業者も多く、競争は激しいが、どの事業所も現状を維持することができている。

